

土壌汚染対策選定例

土壌中には様々な原因により有害な物質が含まれている場合があります。それが人の体に取り込まれることで、健康に悪影響を及ぼす可能性があります。健康リスクを回避するために、有害物質が人の体に入る経路を遮断する必要があります。

2種類の基準について対策選定例を示します。

検討

健康リスクに関する検討

- 1) 要措置区域 …………… 健康リスクあり
- 2) 地下水汚染拡大防止区域 …… 土壌；第二溶出基準超過 等
- 3) 形質変更時要届出区域 …… 健康リスクなし

基準不適合土壌

土壌含有基準超過

土壌溶出基準超過

可能性
人がふれる

地下水への影響
井戸水や

有

要対策
舗装・盛土 等

無

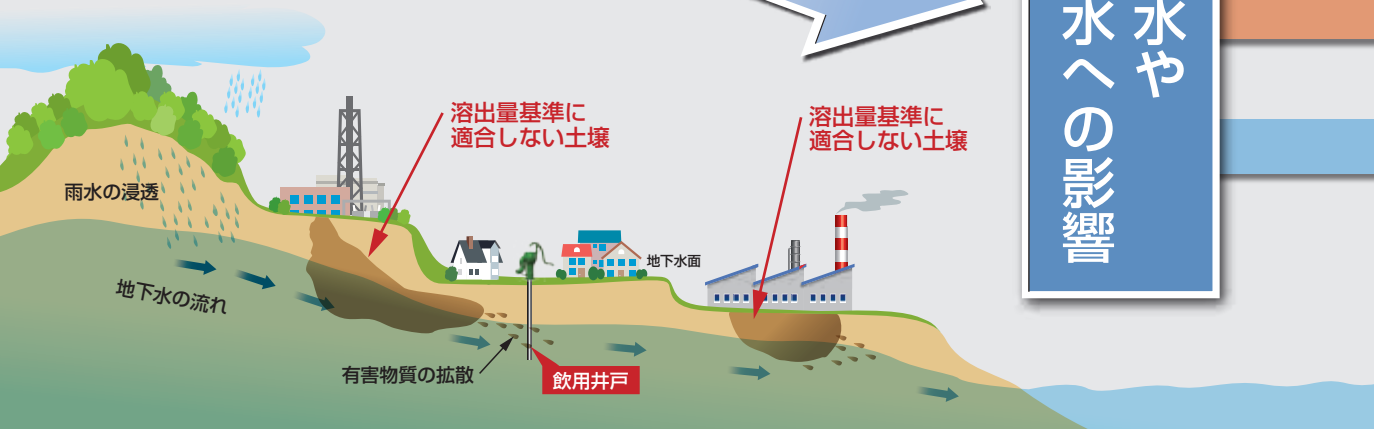
リスク管理継続

有

要対策
封じ込め・不溶化 等

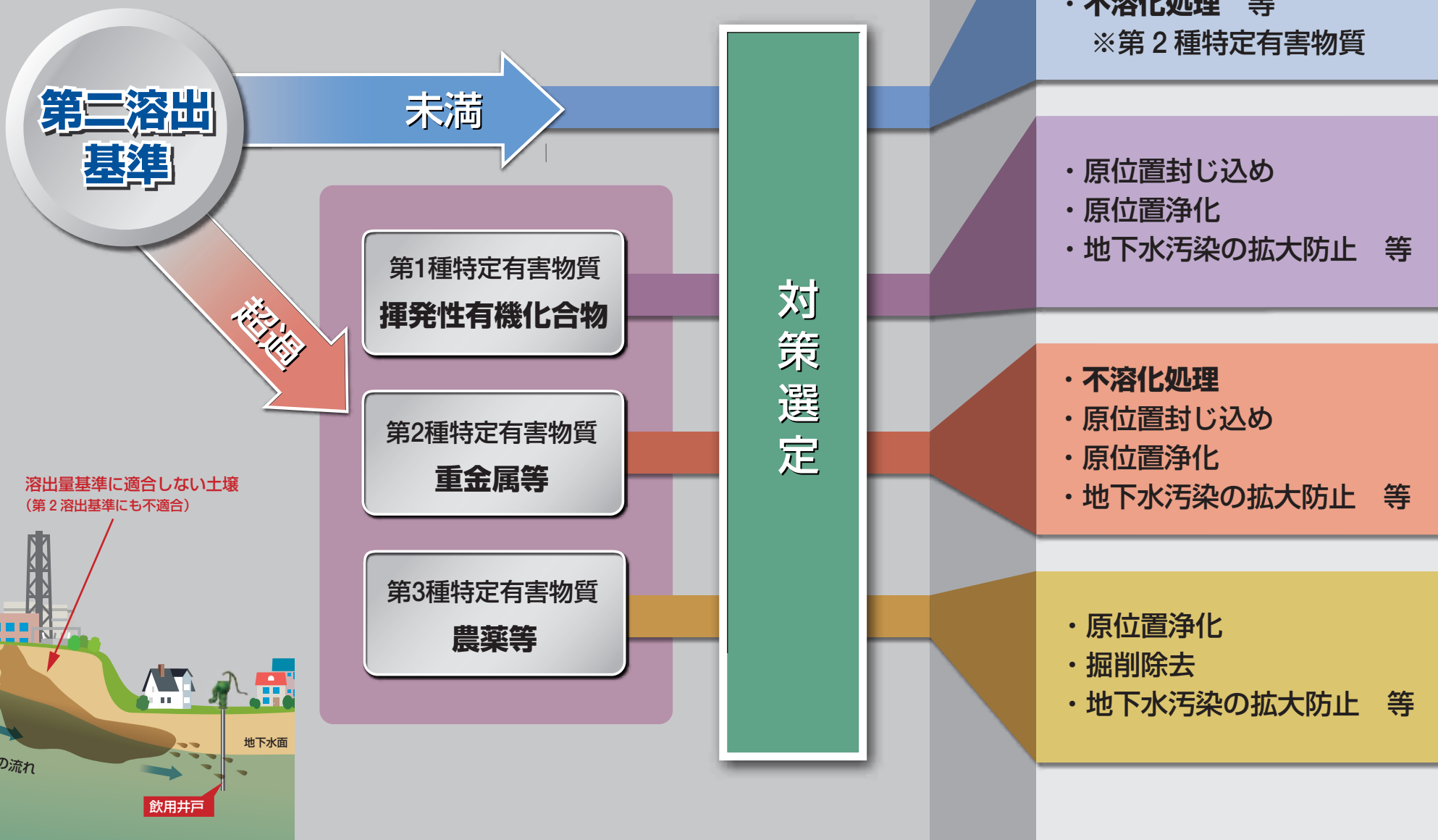
無

地下水の水質調査
対策の選定 等



土壌汚染対策選定例 (土壌第2溶出基準の場合)

2種類の基準のうち、土壌から溶け出した有害物質を含む地下水等飲用時のリスクである土壌溶出基準について対策選定例を示します。

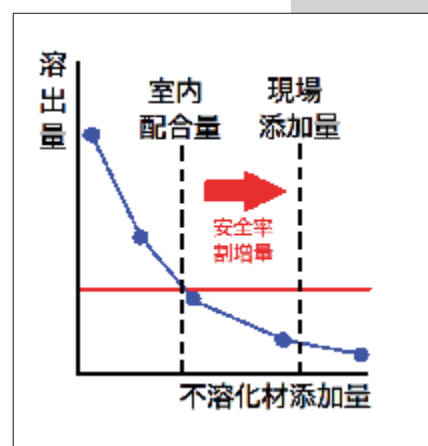
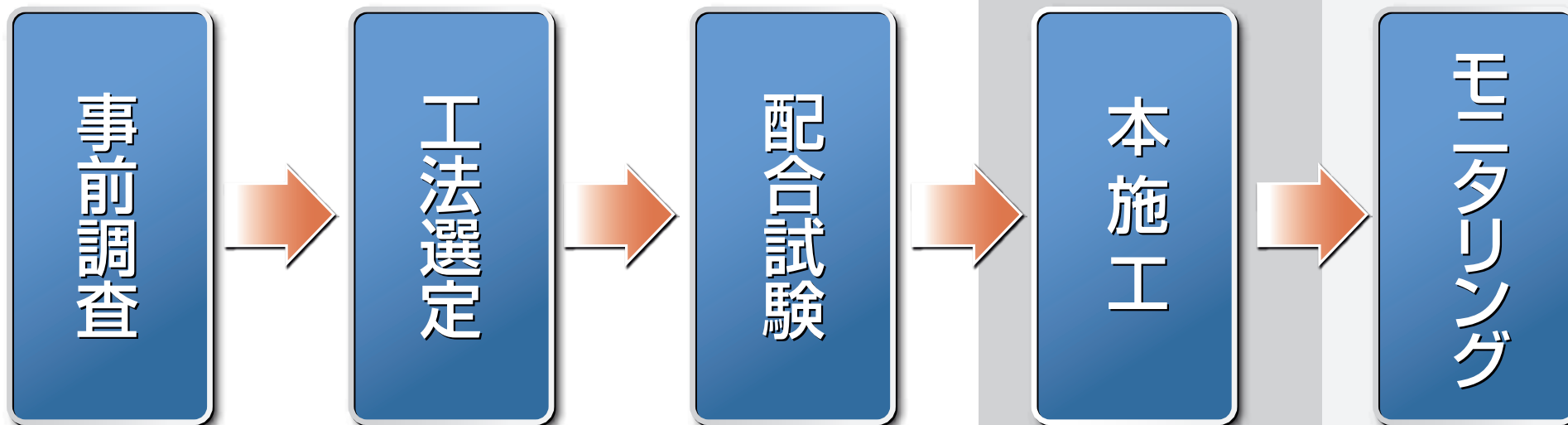


不溶化処理工事の流れ (ご参考)

一般的な不溶化処理工事における施工フローを示します。

現地調査を実施し、配合検討を行い、施工後の地下水等のモニタリングします。

施工時の不溶化材添加量は対象物質濃度、施工、混練方法により安全率を考慮し決定します。



配合試験